

令和4年度 第1回能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議
「木都能代」拠点整備事業の評価・コメント

1 市の担当部署等による評価

	R2 (R1 実績)	R3 (R2 実績)	R4 (R3 実績)	R5 (R4 実績)
現状のまま取組 を継続		○	○	
一部を改善して 取組を継続	○			
大幅に改善して 取組を継続				
その他				

2 出席委員による評価

	R2 (R1 実績)	R3 (R2 実績)	R4 (R3 実績)	R5 (R4 実績)
現状のまま取組 を継続	0	1 2	1 2	
一部を改善して 取組を継続	1 0	2	4	
大幅に改善して 取組を継続	2	0	0	
その他	0	0	0	
計	1 2	1 4	1 6	

3 出席委員のコメント (抜粋)

評価① 現状のまま取組を継続 (12人)	
1	・実績が向上していることから、現状のままの取組継続を可とする。
2	・令和3年度の各施設、設備の利用頻度は前年度を上回っており、また、直近3年間を見てもいずれも右肩上がりの傾向が顕著である。この結果は、施策の有効性のみならず現場担当者の適切な対応の成果であると評価される。好結果の要因を整理し、各施設・設備のさらなる活性化につなげていくことを希望する。
3	・利用者増は大変喜ばしいことで、素晴らしいと思います。増加の要因を精査し、今後につなげていただけたら良いと思います。

4	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において利活用者の増加につながっていることから、現状の取組で継続することで問題ないとする。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業については、「現状のまま取組を継続」すべきと考えます。それは、KPIに関して①能代市技術開発センター及び能代市木の学校使用料等収入、②能代市技術開発センター利用件数、③能代市木の学校利用件数、いずれも目標値を達成しており、活動の成果が認められるからです。 ただし、事業の性格上、いたずらに収益を求めるものではないことは理解しておりますが、使用料等収入の項目がある以上、技術センターと木の学校、それぞれの利用状況と収入について関連性は把握しておく必要はあると思われま。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・能代市技術開発センター、能代市木の学校は、木都能代の歴史を引き継ぎ、木工体験などを通して、木の魅力や木材加工の可能性を市内外に広く伝えています。 コロナ禍の中でも利用状況は順調であり、取組を継続すべきと考えます。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・「木都能代」拠点整備事業は、毎年目標値を達成し素晴らしいと思います。 「木の学校」にある研修棟は「学ぶ」施設として貴重な活用拠点であり、もっと子供たちの教育に生かせないものかと思ひます。子どもから大人までが安心して利用できる施設であってほしいと思ひます。
8	
9	
10	
11	
12	
評価② 一部を改善して取組を継続（4人）	
13	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況は順調に増加しており、コロナの影響もなかったとの事で素晴らしいと思ひう。更なる利用増を図るために、目標値の上方修正をしてはいかかか。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・「木都能代」の拠点整備とは言え、決して利便性が良いとは言えない立地で、且つコロナ禍において技術開発センター・木の学校とも利用者増の実績は取り組んできた事業の功績であると存じます。実績を踏まえると①の現状のままでも良いのですが、技術開発センターと木の学校という存在意義の異なる拠点施設では、設置目的に沿った個別の戦略で広報活動を展開すべきなのだろうと思ひます。木の学校に関しては、市内のみならず、他市町村・県外へのPR、並びに木都能代の子どもたちの木工作品の街角アートの作品展示など、「能代という所は子どもの頃から木に親しんでいるんだ」という事を全国に発信していくべきだと思ひます。また、道の駅「ふたつい」などでの出前講座やPR活動、夏に行われている杉まつり等での関連業者の出店など、手で触れる広報活動を増やしてほしい。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・「木都能代」の地場産業の拡大は少しの揚力では大変だと思ひう。住民の地域愛で頑張るしかない。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・木の学校の利用者層は分かりませんが、子ども向けには、由利本荘市の成功事例の木のおもちゃ美術館とのコラボなども考えて良いのではと思ひます。